

「町会・マンション みんなで防災訓練」

防災訓練を通じた
町会・マンション
～連携事例集～

東京都　生活文化局

目 次

地域でつながろう! もしものために できること

事業の概要

町会・自治会とマンションのつながりをつくる ・・1
令和７年度の実施結果・・・・・・・・・・・・・・・・・2

事業の流れ

合同打合せ～事前レクチャー（防災講話）・・・・・3
合同防災訓練 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
振り返り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

その他東京都支援事業

地域の底力発展事業助成
東京防災学習セミナー ・・・・・・・・・・・・・・・・7
東京とどまるマンション ・・・・・・・・・・・・・・・8

インタビュー

八広六西町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
初台町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
目黒原町会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
志村親和町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
小淀西町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
兵衛一丁目町会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

町会・自治会とマンションのつながりをつくる

町会とマンションがつながる最大の効果の効果の一つが「防災」です。
災害時に地域の防災力を十分に発揮するため、
普段から町会とマンションがつながりを持つことが大切です。

町会とマンションの地域防災における役割

発災時、耐震性が優れているなど安全性が高い建物では、
「在宅避難」が避難の選択肢の一つとなります。

在宅避難を継続するためには、
町会とマンション等との相互連携による「共助」が欠かせません。

町会・自治会（一戸建て中心）

被災状況の把握
巡回、安否確認

備蓄品、物資の提供
水、食料等を地域で配布

要援護者の支援
高齢者、障がい者の把握

マンション

棟内の安否確認
フロアごとに担当が実施

共用スペースの開放
一時避難場所として活用

高層階住民のサポート
階段搬送を協同で実施

共同で実施すること

情 報 共 有　　物 資 融 通　　人 的 支 援

町会とマンションが平時から協力できること

平時から役割を決めておくことで、
災害時でも円滑に動くことができます

連絡手段を決める	合同訓練を実施する	全員参加の備えへの意識
安否確認のルール 担当者、連絡先の共有	安否確認の模擬訓練 備蓄品の確認・展示	在宅避難の備蓄目安の確認

**町会とマンションが連携することで、
地域全体の防災力を高めることができます**

事業の概要

東京都では、合同防災訓練等を通じた町会とマンションの
つながり構築・強化を図るため、町会が近隣のマンション等との
合同で開催する防災訓練の打合せから振り返りまでを支援しています。

事業の流れ

合同打合せ
関係者の顔合わせと
防災訓練に向けた
打合せを実施します。
DAY1　約2時間

事前レクチャー
災害時における
つながりの重要性など
について学びます。
DAY2　約1時間

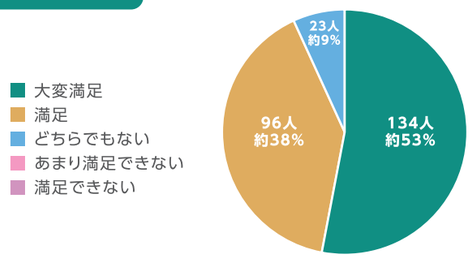
合同防災訓練
AED訓練、簡易トイレ
の使い方など
体験しながら学びます。
約2時間

振り返り
防災訓練を振り返り、
今後のマンションとの
つながり継続を検討します。
DAY3　約2時間

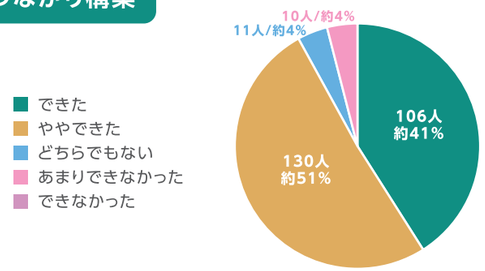
令和7年度の実施結果

［アンケート結果］ 多くの町会とマンションで、つながりの重要性についての理解が深まりました。

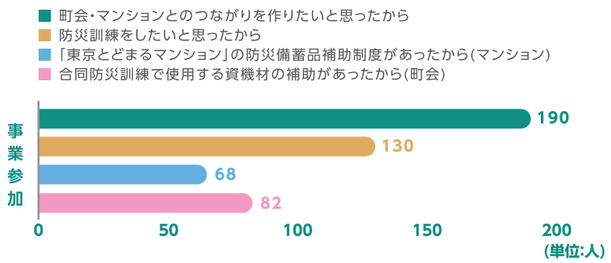
満足度



つながり構築



事業に応募したきっかけ





参加者の声

- 合同防災訓練により世代を超えた交流が生まれ、災害時の相互協力の土台が形成された。
- マンションだけでは防災というテーマはハードルが高かったが、町会と連携することで、地域の特性や現状の課題を理解し、実践的な訓練を行うことができた。
- 町会とマンション双方の知見を共有し、互いの活動について理解する機会になった。
- マンションや町会の人と顔見知りになり、道で挨拶できるようになった。

事業の流れ

合同打合せ～事前レクチャー（防災講話）

合同打合せ → 事前レクチャー（防災講話） → 合同防災訓練 → 振り返り

「合同打合せ」



●概要

町会とマンションの顔合わせや防災訓練の企画・準備のために合同打合せを実施します。
地域の特性や課題について考え、訓練の内容を決め、町会とマンションのつながり構築方法を検討します。

●実施内容

合同打合せ

「事業趣旨説明」「コミュニケーションワーク」
- ●町会とマンションがつながることの重要性の説明
- ●地域の課題について、町会とマンションで議論、発表　など

「防災訓練の確認・決定」
- ●訓練メニューの確認・決定
- ●周知チラシ制作　●周知方法の検討　など

区市町村や消防署の協力も

合同防災訓練は、区市町村や消防署の協力をいただきながら実施します。
事前に、計画等について相談することで、スムーズな訓練実施が可能になります。

「事前レクチャー（防災講話）」



●概要

合同防災訓練の実施に先立ち、専属担当者から防災への備えや共助の重要性について、町会とマンション双方の住民にレクチャーを行います。
また、共同ワークとして避難所運営ゲームを実施し、住民のつながりを強化します。

●実施内容と成果

動画視聴
町会とマンションがつながることの必要性・重要性について動画を視聴



〉

防災講話
地域における共助の大切さや、住民同士がつながることの意義・効果をクイズ形式で解説

〉

共同ワーク
避難所運営ゲーム（HUG）*を活用し、住民間のコミュニケーションを深める

***避難所運営ゲーム（HUG）とは**
避難者の状況が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図に配置しながら、避難所運営を疑似体験するゲームです。

合同防災訓練

合同打合せ → 事前レクチャー（防災講話） → **合同防災訓練** → 振り返り

「合同防災訓練」

●概要

町会とマンションの地域住民が参加し、防災訓練を実施します。
それぞれの意見を聞き取り、地域の特性や課題にあわせ、多くの人に参加いただけるよう工夫します。
町会とマンションのつながり構築に有効で、参加者にとって有意義な内容となるよう、必須訓練に加えて団体ごと訓練メニューを組み立てます。

訓練内容

［必須訓練］ 炊き出し訓練、AED訓練、携帯トイレの使い方、日常備蓄の方法
［推奨訓練］ 初期消火訓練、防災街歩き訓練
［資機材活用訓練］ 初期消火訓練（スタンドパイプなど）、救出・救護訓練、情報連絡訓練、安否確認訓練、マンホールトイレ訓練、生活継続に使用する資機材の使用等訓練
［その他訓練］ 起震車体験、煙体験ハウスなど（町会・自治会から希望があれば実施）

必須訓練

炊き出し訓練

長期保存可能なアルファ化米を用い、
お湯や水での戻し方について実演



AED訓練

消防士の指導を受けながら、
心肺蘇生法とAEDの使い方を実際に体験



携帯トイレの使い方

自宅トイレやバケツ、段ボールを使った
簡易トイレの作り方と使用方法について学ぶ



日常備蓄の方法

「東京備蓄ナビ」を活用し、必要な備蓄品の種類や
数量を確認。ローリングストックの方法について学ぶ



■AED訓練、初期消火訓練、防災街歩き訓練、起震車体験、煙体験ハウスなどは、区市町村や消防署の協力を得て実施しました。

推奨訓練

初期消火訓練

消防署と連携し、消火器や
消防施設（スタンドパイプ）の使い方を学ぶ



防災街歩き訓練

災害発生時に危険となる場所や物、災害時の緊急避難所のほか、災害救助に役立つ施設や防災資源を発掘する



その他訓練

起震車体験

地震の揺れを人工的に再現する専用車両に乗り、過去の大震災を踏まえた実際の地震に近い揺れを疑似体験



告知チラシを作成してPR

訓練内容やスケジュールを
記載した周知チラシを作成し
参加を働きかけました。



資機材活用訓練

町会とマンションのつながりをより一層強化し、地域の防災力を高めるため、
町会が合同防災訓練で使用する防災資機材の購入を支援します。

マンホールトイレ訓練

下水道マンホールの上に設置して
設置方法と使用手順を体験



安否確認訓練

安否確認マグネットを活用し
住民の安否確認の流れを体験



発電機・投光器などの使い方

停電が発生した際に必要な「発電機」や
「投光器」などの使い方について学ぶ



※上記3訓練は購入した資機材を活用した合同防災訓練メニューの一例です。

防災資機材助成について

申請対象

「町会・マンション みんなで防災訓練」を申請した町会・自治会

助成内容

助成上限額20万円（助成率10/10）

条件

次年度以降も、防災資機材を活用して町会・マンションで合同防災訓練を継続すること

助成対象資機材

※以下の訓練を実施の際に使用する資機材が対象です。

合同防災訓練メニュー	防災資機材
初期消火訓練	スタンドパイプ、可搬式消火ポンプ
救出・救護訓練	階段避難車、救急セット、担架、リヤカー、救助用品（ジャッキー・ロープ）はしご、工具、AED、毛布、ヘルメット、懐中電灯、仮設テント
情報連絡訓練	トランシーバー、メガホン、ラジオ
安否確認訓練	安否確認マグネット
トイレ訓練	マンホールトイレ
生活継続に使用する資機材の使用等訓練	給水タンク、炊き出し器、発電機、蓄電池、投光器 カセットボンベ（発電機用）、太陽光パネル（蓄電池用）、養生シート ※設置工事を伴う据置型の発電機、蓄電池、太陽光パネルは除く。

振り返り

合同打合せ → 事前レクチャー（防災講話） → 合同防災訓練 → **振り返り**

「振り返り」



●概要

防災訓練の実施結果をふまえ、町会とマンションの
今後の取り組みにつなげる意見交換を行います。
過去に実施した団体では以下のような意見が挙がり、
今後の関係継続に向けた具体的な話し合いが行われました。

～合同防災訓練を振り返って～

●地域におけるつながりの重要性が理解できた。
●多様な世代が参加し、地域のつながり強化ができて充実した訓練だった。
●防災意識も高まり、実体験訓練は非常によかった。
●訓練内容が実践的で、特にAED訓練と安否確認訓練が好評だった。
●防災資機材の重要性と備えておかなければならない防災資機材の理解ができた。

～次年度の合同防災訓練実施に向けて～

●防災資機材やAED訓練は忘れてしまうので、毎年継続した訓練として実施したい。
●購入した資機材も活用しながら、実践的な訓練を優先的に実施したい。
●キャッチーな体験型訓練を盛り込み、子どもを含めた若年層の参加者を増やしたい。
●地域全体での理解を深めるためにコミュニケーションの場を積極的に設けたい。

～つながり強化の取組について＜防災訓練以外の取組＞～

●町会とマンションの合同SNSグループ設立など、デジタルコミュニケーションツールの活用を検討する。
●消防団や避難所運営協議会とも連携を強化し、情報共有を行う。
●お祭りや地域のイベントなどの町会行事にマンション住民にも参加してもらうことで、直接顔を合わせる機会を増やす。
●町内行事に積極的に参加できるように告知の強化を行う。

今後の関係継続に向けた意識・取組を共有

東京都の支援事業

「町会・マンション みんなで防災訓練」でつくったつながりを
継続するために以下のような支援を行っています。

地域の底力発展事業助成

地域活動の担い手である町会・自治会の皆さんが行う地域の課題を解決するための
取組を推進し、「地域力」の向上を図る事業に対して、助成を行っています。

対 象
東京都内に所在する、区市町村において町会・自治会として登録・把握されている団体

申請期間
具体的なスケジュールはHPをご覧ください。

問合せ先
地域の底力発展事業助成 電話相談窓口
TEL:03-5388-3166
東京都 生活文化局 都民生活部
地域活動推進課 地域活動支援担当

実施事業例
町会がマンション管理組合などの地域団体と
連携して実施する防災訓練 など

詳しくはこちら





東京防災学習セミナー

大災害へ備えるには、一人ひとりが自らを守る「自助」だけではなく、住民で協力して
地域を守る「共助」の意識も大切です。本セミナーでは、地域コミュニティの防災力向上を
推進するため、防災専門家を派遣し、セミナーやグループワークを行います。

対 象
都内の地域コミュニティ
（町会・自治会・自主防災組織・マンション管理組合など）

実施費用
無料
※対面方式のうち、会場使用料が発生する場合はご負担をお願いします。

講義内容
様々なコースをご用意しておりますので、地域の課題や
ニーズに合わせて、コースをお選びください。

実施方法
対面方式、または動画配信・DVDレンタル方式

申請期間・申請方法
詳細はHPをご覧ください

詳しくはこちら

コース例

●コンサルティングコース
防災コンサルタントを最大2回派遣、地域防災の
お悩み解決に向けたコンサルティングを実施

●マンション防災コース
自主防災組織・管理組合等の備え など



東京都の支援事業

東京とどまるマンション

「東京とどまるマンション」は、災害時でも自宅マンションで生活を継続しやすいよう防災対策を講じたマンションを東京都が登録・公開する制度です。

防災マニュアルを策定し、居住者共同で様々な防災活動を行う取組（ソフト対策）や停電時でも水の供給やエレベーターの運転に必要な最小限の電源の確保（ハード対策）によって、自宅での生活を継続しやすい共同住宅（マンション等）を「東京とどまるマンション」として、普及啓発を図っています。

対 象

分譲マンションの管理組合
賃貸マンションの所有者（オーナー）

注意事項

・耐震性を有し、所定の防災の取組を行った、登録基準を満たす共同住宅が対象
・登録後も継続的な維持管理等に努めること





問合せ先

公益財団法人
東京都防災・建築まちづくりセンター
登 録 申 請 TEL:03-5937-1173
補助金申請TEL:03-5989-1547

詳しくはこちら

支援制度

「東京とどまるマンション」に登録しているマンションを対象に、様々な補助や支援制度があります。

防災備蓄資器材の購入	非常用電源（蓄電池・発電機）の設置	非常用電源確保に係る浸水対策	エレベーター閉じ込め防止対策（リスタート運転機能等）
マンホールトイレの整備	非常用電源に係る太陽光発電設備・V2Xの設置	備蓄倉庫の導入	給排水管点検調査の専門家派遣

事例集目次

墨田区

八広六西町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
マンションの在宅避難を支援できる体制づくりを

渋谷区

初台町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
訓練が継続的な連携につながる機会へ

目黒区

目黒原町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
コロナ禍で失われた交流機会のきっかけに

板橋区

志村親和町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
情報共有ツールの活用で継続的な体制づくり

中野区

小淀西町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
エリア特性にマッチした実践的な防災訓練

八王子市

兵衛一丁目町会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
リーダー任せにしない体制づくりを

マンションの在宅避難を支援できる体制づくりを



墨田区 八広六西町会

［連携先マンション］
ライオンズマンション墨田リバーサイド
［世帯数］
［町会］1000世帯［マンション］84世帯
［インタビュー］
伊藤 防災部長

《合同防災訓練》

日　　時：令和7年7月27日(日)10:15～12:15
場　　所：ライオンズマンション
　　墨田リバーサイド 集会室
参加人数：55名(町会18名/マンション37名)
訓練内容：アルファ化米を活用した炊き出し訓練
　　AED訓練
　　携帯トイレの使い方
　　日常備蓄の方法
　　防災資機材訓練(発電機・投光器)
　　安否確認訓練



アルファ化米を活用した炊き出し訓練

［実施内容］

令和7年度

- ● 6月16日(月)　合同打合せ
- ● 7月27日(日)　事前レクチャー
　　合同防災訓練
- ● 8月 6日(水)　振り返り

［特徴］

●町　　会
1000世帯程のエリアで、戸建住宅や低層集合住宅、昔ながらの町工場が混在する下町型の市街地。
子どもから高齢者までが参加できる行事がある。
荒川が近くにあり、水害リスクの高い地域。
子どもよりも高齢者が多い。

●マンション
駅近で都心方面への移動がしやすいエリアで荒川沿いに建つ2000年に建設されたマンション。
建設当時子どもであった方も成人されており新しく入居された方もいるが、住人の高齢化が進んでいる。

接点ができたマンションと防災訓練を通じてつながりを強化

これまで、町会とマンションは、関係はほとんどありませんでしたが、「マンション防災講話会」を契機に接点が生まれました。マンションから合同防災訓練の相談を受けたので、本事業を紹介し申請しました。

今までの防災訓練にはなかった実践に即した訓練

必須訓練に加え、発電機・投光器訓練、安否確認訓練を行いました。
過去の災害時に投光器が避難所で非常に役立ったという経験があったため、投光器を資機材助成で購入し訓練を行いました。
また、安否確認訓練は、安否確認マグネットを購入し、マンション中に取り残されている人がいるかどうかを確認する訓練を行いました。


防災資機材訓練(発電機・投光器)

準備・運営・資料作成など全てを東京都で行っていただけたことは、非常に助かりました。

マンションでの訓練で想定以上の方が参加

町会ではこれまでも防災訓練を実施してきましたが、マンション住民の参加は極めて少ない状況が続いていました。
今回、マンション内で訓練を開催したことで、37名もの住民に参加いただくことができ、防災への関心を高める良い機会となりました。
参加者からは、「日頃からのコミュニケーションが災害時に大きな力になることを実感した」といった声も寄せられ、住民同士が顔の見える関係を築くことの大切さを改めて認識する機会となりました。

他のマンションにも取組を広げるために

災害時には、マンション住民が安心して在宅避難を続けられるよう、町会として必要な体制を整え、マンション管理組合や住民と連携しながら支援を進めていきたいと考えています。
また、今回の取り組みを一過性のものとせず、継続的な防災活動につなげるため、「防災会議」を設け、地域全体で情報や課題を共有する場をつくっていきます。

この会議を通じて、他のマンションにも防災対策の重要性を呼びかけ、地域全体の防災力向上を目指します。
さらに、町会が年に数回発行している広報紙にも防災訓練や活動内容を掲載し、防災に関する情報発信を充実させることで、住民の防災意識の向上と地域全体での情報共有をさらに進めていきたいです。

～事業を振り返って～

町会とマンションが連携し、マンション内で実践的な防災訓練を行えたことで、多くの住民が参加し、防災意識や日頃のつながりを深める機会となりました。
今後も情報共有や訓練を継続し、在宅避難を支える体制づくりと地域全体の防災力向上につなげていきます。


振り返り

訓練が継続的な連携につながる機会へ



渋谷区 初台町会

［連携先マンション］
①グラン・ベスタージュ代々木管理組合
②ファミールグラン代々木の杜管理組合
③パルテールアージュ管理組合

［世帯数］
［町会］2000世帯
［マンション］①45世帯 ②44戸 ③66戸

［インタビュー］
山﨑 会長

《合同防災訓練》

日　　時：令和8年1月24日(土)10:00～12:00
場　　所：幡代小学校　体育館・グラウンド
参加人数：53名(町会27名/マンション26名)
訓練内容：アルファ化米を活用した炊き出し訓練
AED訓練
携帯トイレの使い方
日常備蓄の方法
防災資機材活用訓練(ヘルメット)
初期消火訓練(スタンドパイプ・屋内消火栓)



AED訓練

［実施内容］

令和7年度

●12月18日(木)	合同打合せ
● 1 月24日(土)	事前レクチャー 合同防災訓練
● 2 月19日(木)	振り返り

［特徴］

●町　会
比較的活発に行事などを行っている町会。
防災訓練は年に 2 回程実施している。
およそ 5000 世帯中、町会に属しているのは 2000 世帯程。
戸建ての世帯は 600 世帯ほどで高齢者の方が多い。

●マンション
都心アクセスのいい立地で落ち着いた住宅地にあるバランスの良いエリア。
1999年～2005年の期間に建設されたマンション。
30～50代の子育て世代とシニア前後の世帯が混在している。

マンションとの連携構築を目指した事業申請

マンションの方は、なかなか町会の行事に参加していただけない現状がありました。本事業をきっかけに、マンションとのつながりをつくりたいと思い、申請しました。
連携先マンションとはつながりがなかったため、事務局にマッチングをお願いしました。今回、3つのマンションと連携しましたが、あるマンションは管理会社を介したため、調整に時間を要する場面もありました。

実践的な防災訓練と早期周知の必要性

必須4訓練に加え、ヘルメット訓練とスタンドパイプ・屋内消火栓訓練を実施しました。
ヘルメット訓練では、資機材助成を活用し、町会で 10 年以上も前に用意したヘルメットを入れ替え、使い方を学びました。


初期消火訓練

また、マンションから屋内消火栓を確認したいとのニーズがあったため、町会が保有するスタンドパイプとあわせて、使用方法について訓練を行いました。
町会・マンションで話し合い、お互いのニーズに合った訓練をすることができました。

事業を通じてできたつながり

振り返りが一番効果的でした。
町会もマンションも、最初はお互い警戒している部分もありましたが、訓練を終えて振り返りの時に「参加してよかった」とお互いに意見を交わせることができて、大変よかったです。
訓練後も、あるマンションとは良好な関係を築くことができ、道が開けたと思います。町会のイベントにマンションの方が参加してくれるなど、良い関係になってきています。

町会をハブとした情報共有の広がり

初台町会には多くのマンションが立地していることから、災害時に備えた情報共有や連携体制の構築が重要な課題となっています。そのため、今後もマンションでの防災訓練を継続するとともに、「マンション連絡会」を開催し、町会に所属するマンション同士が情報や課題を共有できる場を設けていきたいと考えています。町会が地域のハブとして役割を担い、マンション間の連携を促進することで、地域全体の防災力向上につなげていきます。
また、町会に加入していないマンションとも積極的に情報交換を行い、新たなつながりを築くことで、災害時に互いに支え合える地域づくりを進めていきたいと考えています。

～事業を振り返って～

町会のイベントにマンションの方が参加してくれるなど良い関係を築くきっかけになりました。
「まず、やってみること、行動すること」が大事だと思います。
「町会・マンション みんなで防災訓練」は、東京都の支援があり、町会・マンションの負担が少ないことも魅力です。
防災訓練のきっかけにもなるので、ぜひ、おススメいたします。


振り返り

コロナ禍で失われた交流機会のきっかけに



目黒区 目黒原町会

［連携先マンション］
①イニシアイオ目黒学芸大学マンション管理組合
②イニシアイオ目黒学芸大学Ⅱマンション管理組合

［世帯数］
［町会］1803世帯［マンション］①56世帯 ②66世帯

［インタビュー］
宮島 会長

《合同防災訓練》

日　　時：令和7年9月27日(土)14:10～16:10
場　　所：マンションエントランス及び私道
参加人数：34名(町会17名/マンション17名)
訓練内容：アルファ化米を活用した炊き出し訓練
AED訓練
携帯トイレの使い方
日常備蓄の方法
防災資機材活用訓練(発電機)
トイレ訓練(マンホールトイレ)



トイレ訓練(マンホールトイレ)

［実施内容］

令和7年度

- ● 8月 9日(土)　合同打合せ
- ● 9月27日(土)　事前レクチャー
  合同防災訓練
- ●10月18日(土)　振り返り

［特徴］

●町　　会
高齢者が多く、マンションも点在しているが、主に戸建てが多いエリア。
町会とマンションのつながりが薄い地域。

●マンション
2008･2009年に建設されたマンション。
居住者は30代から60代以上まで幅広い。
イベント等がないとマンション住人同士が顔を合わせる機会がなく、いずれのマンション内でも交流が少ないことが課題となっていた。

コロナで失った交流の場

過去に町会とマンションで夏祭りを合同で開催していましたが、コロナをきっかけに夏祭りがなくなり、町会とマンションの交流の場がなくなりました。この町会とマンションの距離感を縮めないといけないと思ったのが、申請のきっかけです。
マンションも、マンション管理会社に協力いただき、「東京とどまるマンション普及促進事業」への申請も行うことができ、町会・マンションのどちらにもメリットがある形にすることができました。

参加・体験型訓練

必須訓練に加え、資機材助成を活用し、発電機訓練とマンホールトイレ訓練を実施しました。
見る、聞くだけの訓練ではなく、参加・体験型の訓練を皆さんに体験していただきたかったため、これらの訓練を選びました。


防災資機材活用訓練(発電機)

訓練に参加した方からは、「発電機やマンホールトイレを実際に体験できて良い経験になった」、「AED訓練では消防署の方と近い距離で会話でき、ゆっくり体験できてよかった」などの声をいただきました。

振り返りで町会とマンションの交流を促進

事業を進める中で最も苦労したのは、町会とマンションのコミュニケーション不足でした。当初はお互いに意見を出し合う機会が少なく、住民の声を十分に反映しながら事業を進めることが難しい状況でした。しかし、訓練後の振り返りでは、改善点や次回に向けた前向きな意見交換を行うことができ、相互理解を深める貴重な機会となりました。また、この事業をきっかけに町会へ加入したマンションもあり、新たなつながりが生まれました。現在では、防災訓練だけでなく夏まつりなどの地域行事も一緒に取り組もうという関係が築かれ、継続的な連携につながっています。

町会とマンションの新たなつながり

「町会・マンション みんなで防災訓練」を通じて、町会とマンション住民がお互いを理解し、顔の見える関係を築くことができました。
防災をきっかけに新たなつながりが生まれ、地域で協力し合う意識も高まっています。

今後は、防災訓練に加え、夏まつりなど町会とマンションが一緒に参加・交流できるイベントを企画・実施し、平常時からのつながりを深めることで、災害時にも支え合える地域づくりを進めていきたいと思います。

～事業を振り返って～

防災訓練では、ただ見る・聞くだけの訓練ではなく、自分が主体的に参加する参加型の訓練ができるよう資機材選びから工夫しました。
また、町会とマンションの間にいる消防署や区市町村、管理組合などをうまく巻き込んで、町会とマンションの架け橋となってもらうことはすごく重要です。


振り返り

情報共有ツールの活用で継続的な体制づくり



板橋区 志村親和町会

［連携先マンション］
ヴィオスガーデン城山
［世帯数］
［町会］3841世帯［マンション］417世帯
［インタビュー］
松島 会長(中央)、藤尾 防災部長(左)、植月 防災担当理事(右)

《合同防災訓練》

日　　時：令和7年10月26日(日)9:00～12:10
場　　所：志村第四中学校体育館
参加人数：174名(町会73名/マンション101名)
訓練内容：アルファ化米を活用した炊き出し訓練
AED訓練
携帯トイレの使い方
日常備蓄の方法
初期消火訓練(消火器・スタンドパイプ)
情報連絡訓練


初期消火訓練

［実施内容］

令和7年度

● 9月 1日(月)	合同打合せ
●10月26日(日)	事前レクチャー 合同防災訓練
●11月 6日(木)	振り返り

［特徴］

●町　　会
荒川が近くにあり、一部、高台もあるが、大半は浸水・水害リスクが高いエリア。
マンションと戸建てが入り混じっている地域で、半分がマンション、もう半分は都営住宅と戸建てというエリア。

●マンション
2000年に建設され今年で築26年目。
世帯数417で、町会の中では1番大きいマンション。
居住者の年齢層は30代～70代と幅広い。
防災担当が3名、防災委員会に12名が所属しており、防災委員会は今年で活動4年目をむかえる。

「町会は町会」「マンションはマンション」

毎月の町会長会議で板橋区から「町会・マンション みんなで防災訓練」の紹介があり、マンション側からも「東京とどまるマンション」事業を活用するため、町会との合同防災訓練を実施したいとの提案がありました。双方の意向が一致し申請に至りました。これまで町会とマンションには交流の壁があり、マンション住民の町会行事への参加や役員担い手不足が課題となっていました。

多彩な訓練を通じて地域の防災力を高める

必須訓練のほか、情報連絡訓練（トランシーバーの使い方）と初期消火訓練を実施しました。情報連絡訓練では、資機材助成を活用し、トランシーバーを用意しました。


情報連絡訓練

マンションの防災担当理事がアマチュア無線クラブの代表をしている関係から、訓練で災害時におけるトランシーバーの使い方を学びました。参加者からは、「町会とマンションの合同防災訓練は初めてだったが、今後も必要だと思う」、「町会とマンションの日常の交流が必要」など、つながりづくりの重要性を認識したという意見を多くいただきました。
また、事前レクチャーでは、避難所運営ゲーム（HUG）を行い、町会とマンションのコミュニケーションを図りましたが、参加者から「とてもよかった、もっと時間が欲しかった」などの意見をいただきました。

町会とマンションの情報共有を促進

これまでマンション住民の中に町会役員がいなかったため、情報共有が困難でした。また、町会からの情報発信が足りないために、マンションとコミュニケーションがとりづらい状況でした。
しかし、合同防災訓練を通じて、顔見知りが増え、マンションとのコミュニケーションが活発化しました。その結果、町会の活動に協力してくれるマンションの方が増えました。
今後は、町会とマンションで情報共有できる組織を設け、町会をハブとした防災対策を共有していきたいです。

関係部署の協力のおかげで成功

消防署、消防団の皆さまには、計画段階から訓練本番、振り返りまで、全面的なご支援とご協力をいただきました。おかげさまで大変充実した訓練を実施することができました。心より感謝申し上げます。

～事業を振り返って～

防災訓練の準備や運営などで手厚い支援が受けられたのは大変助かりました。この事業を使わないのはもったいないです。地域防災力の向上に必ず役立ちます。私たちの町会では、この事業を通じてマンションとの交流が始まり、今後のまちづくりの大きな弾みとなりました。


振り返り

エリア特性にマッチした実践的な防災訓練



中野区 小淀西町会

［連携先マンション］
①東中野ローヤルコーポ自治会
②美野マンション管理組合

［世帯数］
［町会］1200世帯［マンション］①42世帯 ②35戸

［インタビュー］
小淀西町会会長(右)、美野マンション管理組合理事(左)

《合同防災訓練》

日　　時：令和8年2月23日(月・祝)10:30～12:30
場　　所：小淀公園
参加人数：54名(町会29名/マンション25名)
訓練内容：アルファ化米を活用した炊き出し訓練
AED訓練
携帯トイレの使い方
日常備蓄の方法
トイレ訓練(マンホールトイレ)
安否確認訓練(安否確認プレート)
初期消火訓練


トイレ訓練(マンホールトイレ)

［実施内容］

令和7年度

- 1月25日(日)　合同打合せ
- 2月23日(月・祝)　事前レクチャー
  合同防災訓練
- 3月9日(月)　振り返り

［特徴］

●町　　会
都心に近く、住宅地がメインの町会。
元々は戸建てが多い地域だが、マンションの建設が進み、戸建てからマンションへ引っ越す居住者が増加している。
区民活動センターの運営や選挙活動など、広範囲にわたって活動している。
高齢者が多いエリア。

●マンション
どちらのマンションも、都心近接で立地がよく、駅が利用しやすい。
1970年・1971年に建設された築年数50年以上のマンション。
居住者は40～70代を中心としているが20～40代の単身者や賃貸入居者も多い。

町会とマンションが連携して進めた防災訓練

これまで町会情報が届きにくかったマンション住民にも、防災行事へ参加してもらうことを目指して申請しました。会長やマンション関係者が常に情報共有し、事務局との連絡や実務、当日の指揮を分担して準備を進めました。
マンション理事長が町会役員を兼ねていたことも連携の後押しとなり、他マンションからの参加も得られる取組となりました。

安否確認を重視した実践的な合同防災訓練

必須の4訓練に加え、マンホールトイレ訓練と安否確認プレート訓練を実施しました。高齢者が多い地域のため、安否確認を重視し、マンション内でプレートを掲示して役員が集計・発表する流れまで体験しました。



安否確認訓練(安否確認プレート)

参加者からは、初めての訓練を体験できて良かった、避難所図面を使ったワークショップが分かりやすかったとの声があり、炊き出しの試食などを望む意見も寄せられました。

多世代の参加で深まる地域のつながり

マンション住民の町会に対する理解や信頼が深まり、「自分たちも協力したい」との声が上がるなど、新たな関係づくりにつながりました。
特に子どもが楽しめる訓練内容は、多世代交流にも効果を発揮しました。
一方で、防災意識の低さや住民特性に応じた企画は今後の課題として挙げられています。
今後はマンション住民のリーダーを町会活動へ積極的に取り込み、情報共有を進めながら、住民に寄り添った訓練を継続し、より多くの参加者を増やしていくことを目指しています。

情報共有で広げる継続的な地域防災活動

本事業の大きな成果として、訓練参加者の中から町会役員へ就任する人が生まれたことです。
防災訓練は、地域のつながりをつくるだけでなく、今後の町会活動を担う人材の発掘にもつながります。
実施時は担当者に負担が集中しやすいため、町会長・町会員・マンション理事長・住民が情報

参加者からは、初めての訓練を体験できて良かった、避難所図面を使ったワークショップが分かりやすかったとの声があり、炊き出しの試食などを望む意見も寄せられました。

～事業を振り返って～

町会とマンションが防災を共通のテーマとして連携し、地域のつながりを深める有意義な取組となりました。
訓練では、安否確認やマンホールトイレなど地域の実情に即した内容を実践的に体験し、防災意識の向上につながりました。
また、幅広い世代の参加により町会への理解と協力意識が高まり、新たな役員の誕生にもつながりました。
今後も連携を継続し、地域全体で支え合う防災体制の充実が期待されます。


振り返り

リーダー任せにしない体制づくりを



八王子市 兵衛一丁目町会

［連携先マンション］
レジデンシアマンションみなみ野
［世帯数］
［町会］317世帯［マンション］120世帯
［インタビュー］
田中 会長

《合同防災訓練》
日　　時：令和7年10月4日(土)10:30～12:30
場　　所：西片倉只沼公園高架下
参加人数：63名(町会41名/マンション22名)
訓練内容：アルファ化米を活用した炊き出し訓練
AED訓練
携帯トイレの使い方
日常備蓄の方法
トイレ訓練(テントトイレ)
消防署による地域歩き講和


携帯トイレの使い方

［実施内容］

令和7年度

● 6 月22日(日)	合同打合せ
●10月 4 日(土)	事前レクチャー 合同防災訓練
●10月26日(日)	振り返り

［特徴］

●町　　会
多摩丘陵に位置する、起伏や高低差のある地域。
「八王子みなみ野シティ」の一部として開発された、比較的新しいニュータウン。
開発後に転入してきた住民が多くマンション住民と戸建て住宅の住民が混在しているが20 年以上の居住者も多い。

●マンション
2009 年に建設されたマンション。
総戸数 120 戸。
40～50 代の子育て世代とその子どもがいる家庭、50～60 代の夫婦世帯が多い。
マンション内は管理組合を中心とした関わりがしっかりしている。

マンションと町会が災害時の違いを理解し、手を取り合うきっかけづくり

兵衛一丁目町会では、戸建て住宅とマンションで、災害時に直面する課題や地域への意識に違いがあることを以前から認識していました。
特に、マンションは排水管の問題ですぐにトイレに行けない状況になってしまいます。こうした違いを踏まえ、同じ地域に住む住民として協力できる関係を築くため、「町会・マンション みんなで防災訓練」を申請しました。

役割を分担し、地域が一体となって取り組む防災体制の構築

本事業は、東京都によるコーディネートのもと、マンション側の総務担当者がリーダーとなり、町会が協力・支援する体制で進めました。


トイレ訓練(テントトイレ)

事業を円滑に進めるため、リーダーに負担が集中しないよう実行委員会を立ち上げ、企画、広報、調整、当日の運営などの役割を分担しました。マンション住民、町会関係者などがそれぞれの立場で協力することで、幅広い参加と継続的な活動につながる体制を整えました。
多様な主体が連携して取り組むことが、地域の防災力向上と持続可能な活動運営に重要であることを確認できました。

防災を通じて生まれた交流と相互理解の広がり

必須訓練に加え、テントトイレ訓練と消防署による地域歩き講話を行いました。町会で各家庭に便袋を配っており、災害時に共助の力を発揮したするためにテントトイレが役立つと考え、資機材助成を活用しました。
マンション住民が参加してくれるか不安でしたが、想像よりも参加していただきました。普段関わることのなかった町会とマンションの人が、お互いに防災に関する意見を交換でき、非常に良かったと思います。

継続的な訓練と日頃の交流でより強い地域のつながりへ

これまで、町会とマンションはお互いに無関心でしたが、この事業を通じて人間関係が良くなったと思います。
振り返りでは、東京都のサポートを受け、町会とマンションの連携を強化することができました。
今後も、携帯トイレやAEDの使い方など、訓練を繰り返し継続的に実施していく必要があると考えています。また、年に2回ある町会の交流会に、マンションも参加してコミュニケーションをとり、より深いつながりを構築していきたいです。

～事業を振り返って～

マンションとつながりを構築して地域防災力を高めるためには、リーダーに一人任せにしない体制をつくることが重要です。「総務部」「防災部」「イベント部」など部会を設置し、実行委員長がまとめるなど、環境づくりが大切だと思います。


振り返り

もしものためにできること



［お問合わせ先］
東京都生活文化局 都民生活部 地域活動推進課 地域活動支援担当
住　所 ： 〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
メール ： S1161202@section.metro.tokyo.jp

事業の詳細はホームページをご覧ください

町会・マンション みんなで防災訓練

詳細はこちら